

宇都宮市立富屋小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家の人と学校のできごとについて話をしている」「家の人と学習について話をしている」「自分は家族の大切な一員だと思う」児童の割合が市や県よりも多かった。生活の在り方について家族との話し合いがなされ、自分は大切に见守られているという安心感のもとで生活している児童の様子がうかがえる。

○「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」児童の割合が高く、「人と話すことは楽しい」には、すべての児童が肯定的に回答している。これは、授業で、ペア学習やグループ学習を多く取り入れ、互いの意見を交換して学び合っていく活動を重視してきた結果だと考えられる。今後も継続していきたい。

○授業の中で、めあてを明確にし、振り返りをしっかり行うことを重視してきた。その結果、すべての児童が「授業では、目標(めあて・ねらい)が示されている」「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている」に、肯定的に回答した。また、「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよくしている」に対する肯定的回答割合も高かった。今後も継続するとともに、振り返りについて力を入れていきたい。

○プリントなどでの復習のほかに、自主学習への支援を行うなど、家庭学習への支援を継続してきた結果「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」児童の肯定的割合が高かった。また、「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている。」への肯定的回答割合も高かった。家庭学習をほとんどしない児童は、平日・休日どちらもいなくなった。家庭学習の習慣づけがなされてきているのでこれからも継続していきたい。

○すべての児童が「学校での役割や係の仕事に責任を持って取り組んでいる」「ものごとを最後までやりとげてうれしかったことがある」に肯定的に回答している。学校生活の中で責任感をもって物事に取り組み、やりとげる喜びを感じることができている。反面、「自分はクラスの人の役に立っていると思う」に肯定的に回答した児童は半数くらいである。自己有用感を高める取り組みを行ってきた結果、肯定的回答割合は昨年度よりは高くなったが、より推し進めていく必要がある。

●「自然や宇宙など、科学の内容を扱っているテレビを見たり本を読んだりするのは好きだ」「国語・算数・社会の教科などの学習が好き」に肯定的に回答した児童の割合が低かった。学習に興味をもって取り組むことができるよう、楽しくわかりやすい授業にむけ、教師側の教材研究を進めていきたい。

●1日のテレビ・ビデオ・DVD視聴時間、ゲームの時間は比較的多めである。4時間以上テレビを視聴したりゲームをしたりしている児童もいる。有効な時間の過ごし方について話題にし、意識をさせていきたい。